

# 商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2021年12月調査結果-

## 調査概要

- 調査期間 2021年12月10日～12月28日
- 調査対象 200社
- 回答企業 126社
- 回収率 63.0%

### ※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

## 旭川市概況

※全産業の12月の状況を見ると業況DIは、前月より10.4ポイント改善の▲23.0となった。

2017年9月以来52ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲21.5、当月と比べ1.5ポイントの改善が見込まれる。

## 旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2021年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 2022年1月～ 2022年3月
業況	▲28.1	▲37.2	▲42.0	▲32.6	▲33.4	▲23.0	▲21.5
売上	▲11.0	▲19.2	▲26.4	▲14.7	▲15.4	▲6.3	▲11.2
採算	▲29.6	▲33.0	▲45.2	▲34.9	▲35.8	▲21.4	▲26.2
仕入単価	▲43.7	▲47.7	▲51.6	▲62.0	▲65.1	▲65.9	▲62.7
販売単価	9.3	1.5	5.6	4.7	13.0	8.7	8.7
従業員	18.0	23.9	25.8	19.4	21.1	23.1	22.2
資金繰り	▲11.7	▲16.3	▲18.6	▲17.1	▲11.3	▲6.3	▲9.5

## 旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2021年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 2022年1月～ 2022年3月
建設	▲20.0	▲27.6	▲31.1	▲18.5	▲43.4	▲32.2	▲39.3
製造	▲30.0	▲34.5	▲42.9	▲37.5	▲41.4	▲26.7	▲16.7
卸売	▲14.3	▲35.7	▲29.6	▲20.7	▲22.2	▲7.4	▲7.4
小売	▲50.0	▲63.2	▲52.9	▲44.5	▲26.7	▲23.5	▲17.6
サービス	▲36.4	▲33.3	▲60.9	▲47.8	▲27.3	▲25.0	▲25.0

## 今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般個人住宅を主とする民間工事発注の減速感が引き続き顕著である。公共工事の既契約に対する設計変更が一定額認められ収益に貢献。（総合工事）</li> <li>・ハウスメーカーやゼネコン・サブコンから受ける工事は、前例年並みの受注を維持し、集合住宅は銀行の融資が厳しくなったせいか減少傾向である。また、来年 4 月から建物解体の石綿報告義務化の影響なのか解体に伴う工事が例年になく多い。よって 1 月以降も忙しい日々が続くそうである。人材については不足気味で即戦力（資格保有者）の人員と将来を見据えて若い人材の確保を積極的に進めたいと考えている。（設備その他）</li> <li>・木材等の資材の値上げによって販売価格が上昇している状況。見込客の減少で工事受注が少なくなっている。（建築業）</li> </ul>
製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は天候不順により農作物生産ラインの低下、コロナ禍の中国内需要も低下と厳しい年となっている。何とか海外への輸出が堅調である事と現状を打破すべき新商品の開発等景気回復に向けて努力しているところである。（食料品）</li> <li>・3ヶ月見通し下期予算見込ベース。親会社の紙生産量が安定せず。工場従業員 1 月、2 月で確保の見込。（家具・木材）</li> <li>・原材料の値上がりが木材だけでなく石油精製品など広範囲にわたり採算性が悪化している。（家具・木材）</li> <li>・購入金属材料の価格上昇が止まらず、販売単価の改定が追い付かない状態が続いている。（金属窯業他）</li> </ul>
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界的なコンテナ不足、原油の高騰、米中摩擦、コロナリスクなどにより、仕入れ商品の納期遅延や高騰が相次ぎ、先行きが不安である。（繊維・衣服等）</li> <li>・売上増加はグループ会社の合併によるもの。次年度に向けて老朽化施設の建て直しの検討が始まった。（食料品）</li> <li>・前年度と同等の業況である。（機械鋼材）</li> <li>・12 月に入り灯油の仕入価格は少し下がったが、今後は不透明の状態が続くと思われる。一方、販売価格については政府の補助対策もあり、大幅な上昇はないと思われる。（その他）</li> </ul>
小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12 月一週目は来店客が少しずつ増え冬物商品（アウター系）の売上が良かったが、二週目に入り雪が降らない為か来店客が少なく売上が苦戦している。クリスマス・年末に冬物商品（アウター系含め）トータル販売をしていく。（衣服身回品）</li> <li>・昨年の 12 月よりは少し回復の兆しが見られるが、コロナ前の状況にはまだまだ程遠い。（食料品）</li> <li>・12 月単月は仕入が下がった分、例年より採算が好転したが、依然安値量販店の影響は大きい。向こう 3 ヶ月の見通しも読みづらいが採算次第である。厳しい 1～3 月と予想。（その他）</li> <li>・半導体不足の状況で販売できる商品が限定され厳しい状況が続いている。（その他）</li> </ul>
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響も峠を越えた気がする。あくまでも“気”なので 6 次感染などがあればまたどん底に落ちるかも。具体的な話はないが、本州旅行社も 2 月からの団体の設定を積極的に進めてくれる話も出てきた。（ホテル・旅館）</li> <li>・昨年は 12 月後半より緊急事態宣言が発令され、年末から 2 月は厳しい状況であった。オミクロン株の懸念はあるが、このまま感染が落ち着けば昨年よりは良くなる見通しである。（ホテル・旅館）</li> <li>・LED サインなどに使用する半導体が納入されず、サイン自体半年から 1 年の納期になり、代替のサインなどに変更するが発注事体キャンセルなどの影響がある。（その他）</li> <li>・コロナの影響は深刻で外食の低迷がこの先もしばらく続くと思われる。（飲食）</li> <li>・前年同月比では好転といえるものの、一昨年比較では 70% 台。燃料単価も高止まりで地道な経費削減効果が追い付かないため厳しい状態。冬期は多客期と見込めるがコロナ第 6 波が懸念される状況下、資金力の余裕は全く無い。（運送）</li> <li>・路線、都市間共に前年度並みではあるが、前年度は最悪な状態であり、前々年度（令和元年度）対比では路線 70%、都市間 50% 迄しか回復していない。燃料費の増大（軽油価格増）でかなりの悪影響を経営に与えている。（運送）</li> </ul>

## 旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI1.4 ポイント改善、採算 DI3.9 ポイント改善、仕入単価 DI8.1 ポイント悪化、販売単価 DI0.3 ポイント改善、資金 DI3.2 ポイント改善、従業員 DI0.9 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 11.2 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、建築業横ばい、総合工事 8 ポイント、設備・その他 27 ポイント改善となった。仕事量の減少により冬期間（12 月～3 月頃）の雇用が厳しいとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI7.0 ポイント改善、採算 DI21.4 ポイント改善、仕入単価 DI2.8 ポイント改善、販売単価 DI4.1 ポイント悪化、資金 DI3.6 ポイント改善、従業員 DI3.1 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 14.7 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、金属窯業他 10 ポイント悪化、食料品 14 ポイント、印刷・出版 21 ポイント、家具・木材 38 ポイント改善となった。資材の値上がりが続き価格改定を実施したとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI33.3 ポイント改善、採算 DI29.6 ポイント改善、仕入単価 DI3.7 ポイント改善、販売単価 DI11.1 ポイント悪化、資金 DI7.4 ポイント改善、従業員 DI 横ばい。総じて業況 DI は 14.8 ポイント改善したが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり実態はほぼ横ばい。業種別では、機械鋼材 19 ポイント悪化、繊維・衣服等 40 ポイント、食料品 29 ポイント、その他 13 ポイント改善となった。いつもの年と違う売れ方をしている理由がわからないとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI0.8 ポイント改善、採算 DI3.5 ポイント悪化、仕入単価 DI0.4 ポイント悪化、販売単価 DI6.6 ポイント悪化、資金 DI8.3 ポイント改善、従業員 DI16.8 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 3.2 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、衣料品 50 ポイント、自動車 17 ポイント悪化、食料品 25 ポイント、その他 14 ポイント改善となった。原材料費の上昇との声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI3.4 ポイント悪化、採算 DI10.6 ポイント改善、仕入単価 DI3.4 ポイント悪化、販売単価 DI1.2 ポイント改善、資金 DI6.5 ポイント改善、従業員 DI2.3 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 2.3 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、整備業 10 ポイント悪化、理美容・クリーニング、ホテル・旅館、その他横ばい、飲食 3 ポイント、運送 50 ポイント改善となった。人員の補充が済み、客先要求への対応が可能となるとの声も寄せられている。</p>